

# 第6号 稲作管理特報

令和5年6月16日  
朝 日 町  
黒東地域農業技術者協議会

コシヒカリの生育はほぼ平年並みに推移しています。今後は、小さなヒビ割れが入るまでしっかりと中干しを行った後、「間断かん水」を実施し根の活力を高めましょう。

## 【コシヒカリの生育状況（みな穂管内）】

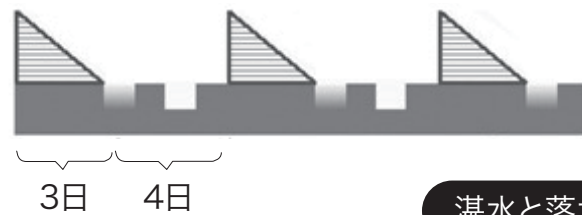
	田植日	6月6日					6月13日				
		草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	草丈 cm	茎数		葉齢	葉色
		本/株	本/m <sup>2</sup>					本/株	本/m <sup>2</sup>		
R5	5/11	31.6	10.9	221	6.8	4.1	34.0	18.0	369	8.3	4.2
R4	5/11	29.2	14.0	284	7.1	4.1	30.4	19.2	391	8.2	4.2
平年	5/12	30.1	11.2	229	6.8	4.2	34.4	17.5	360	8.2	4.3

## 1 「中干し」後の水管理

### ○中干し後から幼穂形成期までは「間断かん水」

- ・根の発生は幼穂形成期まで急速に増えます。幼穂形成期まで湛水と落水を繰り返す「間断かん水」で土壌に酸素と水を供給して根の発達を促しましょう。
- ・幼穂形成期頃までに、足跡深さが3cm程度の硬さになるようにしましょう。

### 間断かん水のイメージ



### 【間断かん水の方法】

乾きやすい圃場：入水→落水→2～3日落水  
乾きにくい圃場：入水→落水→4～5日落水

湛水と落水を繰り返し、根に新鮮な水と空気を交互に供給

### ○幼穂形成期から出穂期までは「飽水管理」

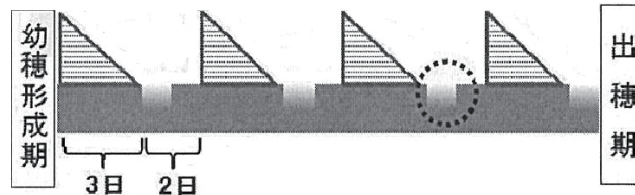
- ・常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ち、根の活力と葉色の急激な低下を防止しましょう。

### 飽水管理のイメージ

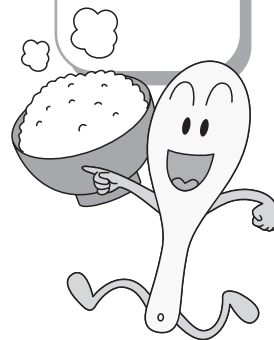
飽水管理の方法  
3cm程度入水後→落水→  
足跡の水がなくなる前に入水  
(出穂始め頃まで 繰り返す)



この状態になったら入水



中干し後は、  
間断かん水を実施し、  
稲体の健全化を図りましょう！



## 2 後期除草剤の散布

- ・ノビエや広葉雑草が残った場合は、後期除草剤を散布しましょう。散布の際には、収穫前日数に注意しましょう。

対象雑草	農薬名	成分数	散布時期	散布量 (kg/10a)
ノビエ	トドメMF1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	1	田植後14日～ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1kg
ノビエ 広葉雑草	フォローアップ1キロ粒剤 (湛水してから散布する)	2	田植後15日～ノビエ5葉期 (イネ4葉期以降) (収穫60日前まで)	1kg
広葉雑草	ハサグラン粒剤 (落水してから散布する)	1	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg

## 3 草刈りの徹底

- ・斑点カメムシ類は稲の出穂期以降に水田に侵入して斑点米の原因となることから、住みかである農道や畦畔、水田周辺の雑草地の草刈りを地域ぐるみで行いましょう。

### 「水田畦畔などの草刈り運動」 の実施について

運動期間 7月1日(土)～10日(月)  
一斉草刈り日 7月1日(土)～2日(日)

- ・刈り取った草は、絶対に隣接ほ場や用排水路に流入しないように努めましょう。
- ・草刈りで道路を汚したら、すみやかに片付けましょう。
- ☆大麦跡田や転作田のすき込み
- ・大麦跡田などは、草刈り運動期間中に必ず耕起し、麦稈や雑草をすき込みましょう。

## 4 農作業中における熱中症を予防

### ○熱中症の発生状況

- ・毎年、全国で約30名の方が農作業中の熱中症により死亡しています。死亡事故の約85%が7～8月に発生しています(図1)。

### ○予防のポイント

- ・高温時の作業は極力避け、涼しい時間に作業しましょう。
- ・喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給しましょう。
- ・複数名で作業を行い、時間を決めて連絡をとり合しましょう。
- ・帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機、保冷剤を活用しましょう。

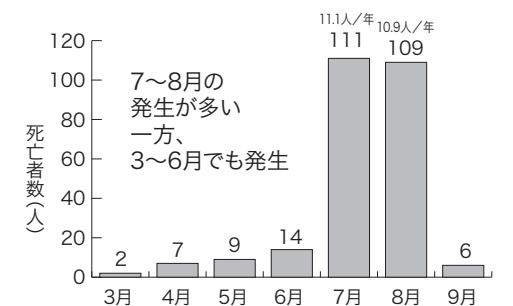


図1. 農作業中の熱中症による月別死者数 (平成24～令和3年累計：農林水産省調べ)

主な情報  
提供内容

- ★JAみな穂営農情報メールを配信しています。
- ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・ 気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

